

「厳寒期に地元の山から伐採した南部アカマツで家を建てませんか」

「床に厚さ3cmのアカマツの無垢材を敷くだけで住む人は健康になります」——2020年度第13回あおもり産木造住宅コンテストでリフォーム賞を受賞した(有)久保工務店の久保直樹社長が、表彰式でそう述べた。「天然無垢の温かさは木の恵みで、床に裸足が触れて健康になる」——印象深い言葉だった。厳寒期に伐採した樹齢約100年の南部アカマツを、自社の人工乾燥機で低温乾燥させ製材するフローリング。また柱や梁など構造材や天井板にはスギを使う。青森県産材で建てる久保工務店の「健康になる家」に、18社目にして辿り着いた風張様の新築物語をご紹介します。

2021年度第14回あおもり産木造住宅コンテスト
優秀賞受賞

ユーザー訪問

風張 様邸

DATA

八戸市旭ヶ丘 2021年10月竣工

■延べ床面積/35.47坪(117.31㎡)

■使用青森県産材/南部アカマツ・青森ヒバ(床、一部内壁)、スギ(柱、梁、天井)など。



「山に木を見に行こう」 会長の一言が「決め手」

久保社長に案内され、完成したばかりの風張様邸にお邪魔した。木の香りが清々しい玄関から、ホールに上がる。床板が久保工務店オリジナルの、南部アカマツの丸太から製材したというフローリングだ。3cmの分厚い板からどっしり感が伝わってくる。

ホール右手は広々としたL

DK。スギの羽目板が張られた勾配天井の高みに、これもスギの太い梁を現わしにした造りはいかにも「木の家」だ。キッチンから洗面・浴室へは仕切りがなく連続していて、使い勝手が良いそう。水回りの近くに設けた洋室は奥様の母親の寝室だそう。リビングの反対側には主寝室と、隣に予備室。床が一体につながるどの空間にも南部アカマツの白っぽい色合いが清潔感をもたらしている。



南部アカマツの丸太から製材したというリビングの厚さ3cmのフローリングは、久保工務店オリジナル

約束の午後1時。施主の風張様ご夫婦がやってきた。陽当たりのよい主寝室の床に車座になった。ご主人が取り出して開いたミニアルバムの、太い南部

アカマツの原木の写真に目が惹かれた。地元の山で南部アカマツとスギを伐採するところから始まった風張様邸の完成までを、ご主人が毎日写真に記録し、アルバムにまとめたものだ。

「この南部アカマツとスギは会長が選んでくれたんですよ」とご主人が写真を指さす。会長とは、久保工務店の創業者で、現社長の父親である。「木材の手配は私がする。厳寒期に地元の山で伐採した南部アカマツで家を建てませんか」と会長が言ったその一言で、久保工務店に頼むと決めたのだと、ご主人は話した。

—— 18社目に久保工務店と出会ったそうですが、ずいぶん熱心に見学されましたね。

ご主人の話 “終の棲家”を建てるのだから、力が入りまし

た。図書館で本を借りて勉強もしましたし、銀行で目にした『青森県産材の家』の本に載っている工務店にも行って展示場を見学しましたよ。

奥様の話 あるハウスメーカーの展示場を見ていたときに、あれ、なんだろうって驚いたことがあったんですよ。目がチカチカして、喉もイガイガするし、頭痛もしてきました。応対してくれていた営業マンは何でもなさそうだったけど、2人も何で頭が痛いのか分からなかったそうです。そんなことがあったあとで、新聞にシックハウスの特集記事が載っているのを見て、これがよく聞くあのシックハウスかって……。

ご主人の話 本で調べたら、床の合板やビニールクロスを貼る接着剤に含まれる化学物質が原因で……と書いてあったけど、結論は、私にも妻にも、そういう建材は合わないということでした。拒否反応を起こして息



南部アカマツの節のある壁板と、無節の床とが“ちょうどいい具合”に調和しているタンス置き場

苦しくなるのだからとても暮らせません。合わないどころか、そんな家に住んでいたら病気になるですよ。

奥様の話 これもあるハウスメーカーの家を見学に行ったときのことなんですけど、「当社の住宅の耐震性や断熱性が優れていることは測定した数値によつて裏付けされています」と

言つたんです。住宅の性能はきちんと数値で保証されていなければならぬ、とね。

わたし、その話を聞いたときにも、シックハウスじゃありませんけど、拒否反応を覚えたんです。それつてマニュアルのセールストークですよ。他社との差別化をはかつて売るためのね。どだい、そんな数値を気にして暮らしてなんかいませんよ。生活に必要なのは、もっと素朴に、床や壁の木の柔らかさや、温かさや、香りといった“感覚”だと思ふんです。

——お話をちょっと戻しますと、奥様のお母様が住んでいる実家をリフォームするか、建て替えるか、そこから始



リビングの反対側にある母親の部屋にも節のある壁板が張られている

まったのですね。

奥様の話 高齢者の一人暮らしは何かと心配だから、私たちも同居することにして新しく建て替えることにしたんです。

初めはリフォームも検討したけど、築60年近く経つていて古すぎました。そうは決めたものの、じゃ、工務店に頼みましょう、と簡単にはいきませんよね。まずは住宅展示場や完成見学会の家を見学して歩きました。お隣の岩手まで出かけたりにして、いろいろ見たり聞いたりにして、いろいろうちに、大事なことが見えてきたんです。木材です。全国で展開している大手のハウスメーカーでは外国から安い木材を輸入しているという実

態が見えてきたんです。わが家に使う木は、初めから県産材を希望していました。県産でなく

でも、せめて国産材。木でも食品でも、自分の住む地域や国で生産されたものが一番安全で安心できます。

ご主人の話 海外から運ばれてくる木材には防虫剤がたつぷりとかけられているはずですよ。それでも現実には毒グモがもう入り込んでいますけどね……。安い木材を輸入するのはメーカーの都合で、建てる側の要望ではありません。それを境に、「日本の木」で建てている工務店に的を絞ることにしたので

す。

天井と太い梁にはスギ 脱衣室の壁は青森ヒバ

奥様の話 久保工務店の完成

見学会に行ったのは去年(2020年)です。階上町で開かれると新聞広告で知つて、見に行つたんです。8月でした。そこで久保さん(久保直樹社長とお会いしたんですが、初対面とは思えないほどに話が弾んでね、2時間も3時間も……もつ



脱衣室の壁には青森ヒバ
(左手がユニットバス、奥が洗面所)

と長かったかもしれませんが、ど、じつくり話し込んだんです。その家のお施主様がコーヒーを差し入れてくださってね……。帰宅してから、あれって気が付いたのは、あんなに長くお邪魔していたのにぜんぜん気分が悪くならなかったということです。主人もです。

それと、印象に残ったのは木の香りでした。室内にほんのりと漂うみたいに木のいい匂いがしていたんです。久保さんも熱心だったし、飾らない人柄も良かった。南部町にある久保工務店を訪ねたのは、そのすぐあとでした。

「ご主人の話 事務所で久保さんが、「これが自社で製品化した南部アカマツの床材です」と

板を見せてくれました。地元の家から伐採した樹齢が70年とか100年とかの南部アカマツを自社で低温乾燥させて、それを厚さ3cmに製材したものだそうです。触れてみました。分厚く、ぬくもりがあつて、本物の木“の感触が伝わってきました。

奥様の話 創業者である久保さんの父親の会長は、長いこと大工をしてきたそうで、木材の手配をはじめ今も現場で働いているんだそうです。その会長が、こう言ったんですよ。「木を伐るのは12月から2月の寒い時期が一番良い。その時期に地元の家から伐採した木を見に行きませんか」と。

「ご主人の話 その一言が胸に響いたんです。職人魂が伝わってきましたよ。それで決めました。地元の木を使って建ててもらおうって。

奥様の話 リビングの天井に太いスギの梁を架けたほうが頑丈でいい、と提案してくれた

のも会長なんですよ。

「ご主人の話 タンス置き場の壁も木にしたかった私たちのニーズに、南部アカマツの15mm内装材にしたらと提案し応えてくれた久保社長のその一言も背中を押してくれました。節のある壁板と、無節の床とがちょうどいい具合に調和していて、気に入っています。

奥様の話 ずいぶん遠回りして久保工務店に行き着いたけど、いろいろ見て歩いたからこそ地元の木の良いところがよく理解できたと思うんです。念願叶って、快適で安心な「終の棲家」に暮らせます。

■風張様邸の特徴

- 〈床〉南部アカマツの丸太から厚さ3cmに製材したオリジナル品
- 〈壁〉15mm厚に加工したアカマツの端材／珪藻土クロス／寝室とトイレの壁は、光とプラス3℃あれば触媒効果で半永久的に室内空気をきれいにする幻の漆喰／脱衣室は青森ヒバ
- 〈梁〉スギ
- 〈天井〉スギの羽目板

お届けします。木の香り 木のぬくもり



有限会社 久保工務店

三戸郡南部町大字杉沢字木戸口18-1
TEL.0178-84-3797 FAX.0178-84-3812
http://kubo-k.hachinohe.biz/

